

次号予告

特集 集/障害者の性と結婚

障害者における性と結婚の問題（最近の知見から）

脊損者の性機能と結婚……………東京都心障センター 河内 清彦
性と結婚に関する相談から……………神奈川県障害者結婚相談所 宮崎 一興
精神障害者の結婚……………世田谷リハビリセンター 長谷川 茂代
Sexual Rehabilitation……………(The University of Alberta) 河野 恭子
……………(東京都心障センター) Benita Fifield 著
……………(中伊豆リハビリセンター) 寺山久美子訳

とびら 講座

脳卒中の性の問題……………中伊豆リハビリセンター 三島 博信
職域の展開をうらなう……………昭和大学精神科 関 英馬
老人 9. 福祉施設の課題とその対応
(Total Institution の立場から)……………東京都老人研究所 浅野 仁
障害児と母子関係

5. 視覚障害児における母子関係……………東京都心障センター 香川 スミ子
人工関節全置換術……………東大・整形 二ノ宮 節夫
リハビリテーション・〈日本精神神経学会〉……………学会事務局
インフォメーション 〈日本肢体不自由児協会〉……………協会・業務部長 今野 文信
あんてな アビリンピック……………太陽の家・大分中村病院 中村 裕
資料 第17回理学療法士・作業療法士国家試験問題一模範解答(VI) (1982年度)

編集後記

社会の要請、医学の発展に伴い、PT・OTのかかわる分野にも変化をもたらしている。今月号の特集は“難病のリハビリテーション”で、難病へのPT・OTのかかわりもその必要性が高まりつつあり、したがって我々もそれに応えるべく悪戦苦闘しているのが現状であろう。ともすれば、無力感から逃避したくなるような難問が山積している分野でもある。神経難病の医療および在宅ケアに関してはモデルになっている都立神経病院の、ケースワーカーの川村氏には「神経難病患者の在宅ケアの条件」について、池田氏には「難病患者に対する理学療法士の役割」について、また市川氏には「難病患者に対する作業療法士の役割」についてお願いした。いずれも実践からの論文で、貴重な経験から多くの示唆を与えてくれている。池田氏の指摘しておられる補装具の給付制度の種々の問題点、必要なものが対象にならないという事実は、難病に限らず共通の大きな問題で、筆者自身もこの矛盾のために何度不本意な器具を与え

ざるを得なかったかわからないし、また合わない機器を持っている障害者に出合うことも多い。市川氏は、疾患別の作業療法、自助具を紹介され、難病ならではの特殊な工夫がにじみでているものばかりである。

真野氏には、難病の一つである「脊髄小脳変性症のリハビリテーション」についてまとめて頂いた。

講座「老人」は小倉氏の「老人福祉への発想」で、現状の考え方を厳しく分析しておられる。障害者観・老人観に大きく左右されるリハ援助にかかわる職員として自分の老人観を深めるためにも一読をおすすめする。

講座「障害児と母子関係」の飯田氏の論文は、精薄児における母子関係であるが、これはそのまま身体障害児にもあてはまる。漠然と感じていた点を明確に整理されており、母親指導に不可欠な内容といえる。

老人保健法も衆・参両議院を通過し、地域ケアの新たな局面を迎えようとしている。領域の拡大と共に、我々の責任も、社会的レベルになることを自覚した上で、歩を進めたいと希っている。（福屋靖子）

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長
五味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科
大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター
寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
加納岩総合病院
奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学
松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己
池 田 俊 雄
伊 東 元 夫
宇都宮 初 幸
大 丸 幸 翼
金 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
木 村 信 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 馨 明
嶋 田 智 明
鈴 木 明 子
関 昌 家
高 橋 正 明
中 屋 久 隆
橋 元 隆
藤 沢 しげ子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
(担当 細田・西塚)